



2021年12月17日

各 位

上 場 会 社 名 麻生フオームクリート株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 花岡 浩一
(コード番号：1730 東証JASDAQ)
問 い 合 わ せ 先 取締役人事総務部長 井上 喜博
(TEL. 044-422-2061)

新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して本日スタンダード市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点(2021年6月30日)の状況及び追加資料の提出による再判定の結果、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、新市場の区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせいたします。

記

○ 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の移行基準日時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっており流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は流通株式時価総額に関し、2025年3月期末までを目途に上場維持基準を充たすために各種取組を進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価総額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の状況 (移行基準日時点)	1,133	10,265	6.1	30
上場維持基準	400	2,000	10	25
計画書に 記載の項目			○	

※当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

○ 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

1. 基本方針

当社は、スタンダード市場の流通時価総額の適合に向け、時価総額の増加と流通株式比率の上昇に取組むことを基本方針とし、上場維持基準への適合を目指してまいります。

2. 課題

当社は、企業価値の向上と当社株式の流動性を高めることが課題であると考えております。

3. 取組

時価総額の増加につきましては、中期経営計画(2023年3月期～2025年3月期)を策定し、事業体制を強化して業績の向上に取組むことで企業価値の増大をはかってまいります。なお、中期経営計画につきましては現在策定中であり、2022年3月期の決算開示時に公表いたします。

流通株式比率の増加につきましては、当社株式保有状況を見ると事業法人等と普通銀行が保有している株式が多く、当社業績の推移及び株価状況を注視しつつ、当該株主と当社株式の縮減等を検討・協議の上、適切な対応を行っていく予定で、当社株式の流動性の向上に努めてまいります。

以 上

【上場維持基準の適合状況】

当社の移行基準日（2021年6月30日）におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況（※1）は、「流通株式時価総額」において基準を充たしていません。

	当社の数値	スタンダード市場 適合状況
株主数	1,133人	○
流通株式数	10,265単位	○
流通株式時価総額	615.2百万	×
流通株式比率	30%	○

※1「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する二次判定結果について」
（株式会社東京証券取引所より2021年10月27日付 受領）

【計画期間】

上場維持基準を充たすための計画期間を「中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）」の最終期末とし、企業価値向上のための各種取組を進めてまいります。

【基本方針】

○時価総額の増加

「中期経営計画（2023年3月期～2025年3月期）」に基づき、気泡コンクリート工事をキャッシュ創出事業とし、地盤改良工事の拡大を着実に進めるとともに、コーポレートガバナンスの充実・情報開示の充実に取り組み、企業価値を継続的に向上させることで「時価総額の向上」を図ります。

○流通株式比率の上昇

東京証券取引所の2次判定結果における当社の流通株式比率は「30%」であり、スタンダード市場の上場維持基準を充足いたしておりますが、「流通株式比率の向上」に向けた取組も併せて実施することで「流通株式時価総額」の向上を図り、スタンダード市場での上場維持基準適合を目指します。

1.『時価総額』向上に向けた現状の課題及び取組

株式市場で評価を得る（株価の上昇）ためには企業価値を向上させることが重要な課題と考えています。
当該課題を解決するために、以下の取組を実施してまいります。

① 中期経営計画推進による業績向上

- ・気泡コンクリート工事 …… ニッチ市場ではありますが、当社のシェアが高く地盤改良工事に比べ利益率が高い気泡コンクリート工事(エアモルタル・エアミルク工事)を、キャッシュ創出事業と位置づけ用途拡大を図るとともに、長距離圧送が求められる長いトンネルの背面空洞補修等において、湧水場所や水中での充填施工が可能な非エア系可塑状グラウト材を使用した NLG 工法や、少量の気泡コンクリート工事が簡単に出来るプレミックス材の販売等による市場開拓に取り組んでまいります。
- ・地盤改良工事 …………… 競争は激しいが市場規模が大きい地盤改良工事を重点投資事業として、気泡コンクリート工事で獲得したキャッシュを投資(ヒト・モノ・カネ)し、営業・施工体制強化による受注及び完成工事高の拡大を図ることで、当社の第 2 の柱となる収益事業として育成してまいります。

② コーポレートガバナンスの充実

スタンダード市場に要求される原則をベースに補充原則の実施に向けての取組

- ・2022 年 4 月を目途に任意の各委員会（指名委員会・報酬委員会）を創設いたします。
- ・経営計画を推進するために必要な取締役のスキルのバランスを計ってまいります。

③ 情報開示の充実（IR 活動の強化等）

中長期における企業価値向上を図る観点から、情報開示の充実及び当社の社会的認知度向上を図ります。

- ・当社 HP での IR 情報の充実を図ってまいります。
- ・投資家向け会社説明会を適宜開催してまいります。

④ 株主還元施策

配当方針として継続的かつ安定的な配当を行うことを基本としつつ、業績が向上した場合は都度増配を検討いたします。

2.『流通株式比率』向上に対する現状の課題及び取組

当社株式の流動性を向上させることが課題と捉えております。

特に、当社株式を保有する普通銀行・事業法人の当社政策保有株の縮減を当該株主と検討・協議の上、当面の目標として流通株式比率 35%を目指してまいります。